

序

「富山大学杉谷（医薬系）キャンパス研究活動一覧」は、杉谷キャンパスの医学部・薬学部・和漢医薬学総合研究所・附属病院に属する教員・研究者によって行われた研究成果を取りまとめた業績集であります。富山医科薬科大学の伝統と特色を引き継ぎ、今回で第35輯となりました。本誌には、各部局・講座単位に、著書、論文（原著・症例報告・総説）および学会発表など、2011年の成果が網羅されています。全ての業績は、研究者それぞれの創意工夫と努力に加え、学内外関係者の協力・支援により生み出されたものであり、本学における貴重な「知の財産」そのものであります。

近年の科学・技術の進歩は、世界の社会・経済構造に大きな変革をもたらし、これに伴い研究活動の環境や考え方も大きく変化してきました。インターネットなどコンピュータ技術の生み出したデータ収集・整理能力の大きさやスピードは、人間の能力を遥かに凌駕するものとなり、研究者にはより高いレベルでの科学的思考や手段、創造力あふれる人間力が求められています。一方で、経済的・時間的制約や、新たな倫理面への対応等、研究現場の環境は年々厳しさを増しております。今回ご報告されている業績は、このような厳しい環境を乗り越え生み出された皆様の努力の結晶であり、その取り組みと成果に心よりの敬意を表します。

急激に変化・成長する世界で、人間・組織・社会に求められているものは「マネジメントとイノベーション」の力と言われています。研究領域においても例外ではなく、特に大学における研究者には、大きく3つの課題、「1. 研究は誰のために、どのような目標・目的で行っているのか?」「2. 研究活動の実施において、プロフェッショナルとして最善を尽くしているか?」「3. 次世代を引き継ぐ優れた研究者を育成しているか?」が問われています。特に近年は、基礎研究を含め研究の成果は如何に人類、社会に貢献できるか、という視点が強調されるようになってきました。医療・薬業界の現場では、新たな高度先進医療の導入や革新的創薬の開発・普及など、成果の発信・定着が待たれています。今回の業績集の成果に学内外の皆様が目を通していただくことで、学内研究者および学外産学官との連携活動がさらに推進され、新たな展開が生まれることを期待しております。

最後に、本学で研究活動を行っておられる皆様、ならびに学内外関係者の皆様の益々のご活躍とご発展を、期待を込め祈念いたします。また本誌の刊行にご尽力された編集委員・関係各位に厚く御礼を申し上げます。

学 長 遠 藤 俊 郎
Endo Shunro